

令和元年第5回東大和市議会総務委員会記録

令和元年7月25日（木曜日）

出席委員（8名）

委員長	荒幡伸一君	副委員長	根岸聡彦君
委員	大后治雄君	委員	森田真一君
委員	蜂須賀千雅君	委員	和地仁美君
委員	東口正美君	委員	中野志乃夫君

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

議会事務局職員（5名）

事務局長	鈴木尚君	事務局次長	並木俊則君
議事係長	尾崎潔君	主任	櫻井直子君
主任	高石健太君		

出席説明員（なし）

会議に付した案件

（1）所管事務調査

市の魅力を高めるための施策について

午前 9時29分 開議

○委員長（荒幡伸一君） ただいまから令和元年第5回東大和市議会総務委員会を開会いたします。

○委員長（荒幡伸一君） 所管事務調査、市の魅力を高めるための施策について、本件を議題に供します。

前回の委員会において本件を所管事務調査に決定いたしましたので、本日は今後、具体的にどのような形で調査を進めていくか、御協議をいただきたいと存じます。

事前に所管事務調査の進め方についての正副委員長（案）を送付させていただきましたが、改めて私のほうから説明をさせていただきます。

それでは、机上に御配付させていただきました所管事務調査の進め方について、令和元年度（案）をごらんください。

9月から3月までの予定をお配りさせていただきました。

まずは、9月定例会中になりますけれども、東大和市ブランドプロモーション指針の説明を市側に行っていたかと思っております。これまでの取り組みや状況について御説明をいただき、その後、皆様のほうで質疑、自由討議を行っていただきたいと存じます。

また、10月、宿泊を伴う視察を考えております。

11月、流山市等近隣の先進市への視察を考えております。

ただ、こちら日程の調整によって10月、11月、宿泊を伴う視察と流山市等の近隣の先進市の視察、逆転するケースも出てくるかと存じますので、よろしく願いをいたします。

そして、12月、また定例会中になりますけれども、行政視察を行っていただきましたその意見交換を行い、各委員の考えを自由討議していただきたい、このように考えております。

そして、1月は東村山、また武蔵村山などの近隣市への視察を考えております。

2月は特になくて、3月、定例会中になりますけれども、1月に行いました行政視察の意見交換を行い、皆様において自由討議をしていただき、取りまとめの参考にさせていただきたい、このように考えております。

正副委員長案についての説明は以上となります。

それでは、ただいまの説明に対して、また、そのほかにも御意見等ございましたら、御発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

○委員（和地仁美君） 事前に送っていただいたので、正副案、目通させていただいているんですけど、この市の魅力を高めるための施策っていうと非常に範囲が大きいと思うんですけど、今回ここ正副案の中では、ブランドプロモーションにフォーカスして、これはスケジューリングを提示していただいたということで、調査の進め方っていう考えを持って作成するのであれば、もうちょっと具体的な項目や課題をフォーカスしないと、極論、議会でも多くの議員の方が取り上げてる特色ある公園っていうものも市の魅力を高めるっていうふうになっちゃいますし、それは建環の範疇なのか、総務の委員会の視点でそういうものを調べるっていうこともできるとは思いますし、もしかしたら待機児童の数っていうことにもなるかもしれないし。

この正副案だけを見ると、いわゆる当市の場合はブランドプロモーションって言うんですけど、シティプロモーション、要するにうちの市の魅力を外部にどう伝えていくのか、また市民の皆様はどう共有していくのかっていう取り組みを今回所管事務調査として、その調査の内容を少し余裕を持たせてこの項目にしたのか。

それとも、この調査項目の文言どおり、市の魅力を高めるための施策っていうものがどういうものがあるのかっていうものを調査するのか。そこら辺をちょっとはつきりしないと、先進市に行っても何を見たくてその市を選んでいて、例えば流山さんだったら、子育て支援もやってるでしょうし、それも市の魅力を高める施策ですけれども、一方でプロモーション、マーケティングっていうのを市長主導で講習会を市内でするっていう取り組みも流山さんありますから、そちらの部分を見に行きたいのか、ちょっとそこら辺を焦点を絞らないと、漠としていて、ちょっとどうなのかなって思いますし、当市においていうと、まち・ひと・しごとの経営計画が今年度が最終年度で、来年度から新しいものを計画するっていうことは市のほうは表明してますけれども、じゃ、振り返りをして、今後にどういうものを盛り込んで強化してやっていったほうがいいのかっていう部分を委員会の中でも、それを最終的に報告に挙げていくのか。

ちょっとそこら辺を皆さん、意見を取りまとめて、どこにフォーカスして調査をするのかっていうのがわからないと、極論、このブランドプロモーションの指針についても、読めばわかるって言えばわかってしまうものなので、何をこう調査をして、どう生かしていきたいのか、何を課題意識を持って調査をするのかっていうのをまず決めたほうがいいんじゃないかなというふうに、私はちょっとこれを見て思ったんですけども、ほかの委員の皆様様の御意見も、ちょっと委員長のほうで確認していただけたらなって思います。

○委員長（荒幡伸一君） ただいま和地委員のほうから進め方について御意見がございましたけども、ほかの委員の皆様から何か御意見はございますでしょうか。

○委員（森田真一君） 資料いただいて、私も自分なりに考えてみたんですけど、この関東近隣なんかで言えば、例えば挙げられた流山市だとか、あと我孫子市ですとかね、ラジオCMなんかも打って、子育てするなら我が市へみたいなキャンペーン張ったりとかしてるところって幾つもあって、我が市も、やり方はまたちょっと違いますけど、似たようなところがあるかと思うんですが、どうしても今どきですと、子育て支援を前面に出して人口流入みたいな感じにはなってしまうんで、他の委員会の所管とどうやって切り分けたいのか。若干はかぶるのはしょうがないと思うんですけど、いいのかなっていうのがちょっとわからないまま、きょうに臨んでしまったっていう感じっていうのが率直なところなんです。

ある程度割り切って、当然そういうものを網羅的にいろいろ、ここの市では例えば子育て、ここだったら農業だとか、どっか特化して押し出しをするっていうのは当然どこのまちでもあり得るでしょうから、一定もう踏み込んでいい、建環なり厚文なりのところとちょっとかぶってもいいんだっていうふうに割り切ってやれば、割と自由度もあっていいのかなとは思っております。

○委員長（荒幡伸一君） ほかに御意見はございますでしょうか。

○委員（中野志乃夫君） 後で説明されるのかもしれないけど、正副で流山さんのどこをどう見るとかという具体的な中身をちょっと教えていただかないと、ちょっとよくわからないので、それをお願いします。

○委員長（荒幡伸一君） 今、中野志乃夫委員のほうから中身ということでお話がございました。

流山市に関しましては、東大和市と同じように、子育てをするのであれば流山市というふうなうたい文句で市の魅力をアピールしているわけでございますけども、東大和市も「日本一子育てしやすいまち」ということで今、進めているわけでございます。

同じような内容というか、どのようなプロモーションの違いがあるのかどうかというようなところを視察をしていきたいというふうに考えてるところでございます。

○委員（中野志乃夫君） 子育てそのものだったらちょっと観点が違っちゃうから、今言われたように、どこが

違うのか、キャンペーンなりプロモーションの訴え方とかそういう点でっていうことだったら了解しました。

○委員長（荒幡伸一君） ほかにございますでしょうか。

○委員（東口正美君） 和地委員がおっしゃったように、この市の魅力を高める施策についてっていう、これを見て推察するにはブランドプロモーション、プロモーションについて、同じ施策をしていてもプロモーションの仕方での魅力の発信の仕方が違うので、そこを所管事務調査に挙げているんだという推察はついて、推察のもとに理解を私はしたという形なので、行政視察を行う各市のブランドプロモーションがどうなってるのかっていうことを学ぶんだっていうふうに推察をしていますけれども、それでいいのかどうなのかっていうことで。

そうであるならば、各市の施策、ブランドプロモーションを勉強した上で、例えば子育て、例えば観光、例えば……というようなことが具体的なところとプロモーションっていうところがどうなってるのかっていうところが一番大事な。東大和市もプロモーションもしてるんだけど、現実がどうなってるのかっていう、現実のほうがいいのにプロモーションが足りてないとか、プロモーションはしてるけど現実が追いついてないとか、そういうことを多分この9月議会において御説明もいただきながら、質疑、討論していくんだというふうに推察をしています。

そういう形であるのであれば、各市のプロモーションと行政との関係性っていうのを、まずは東大和市を振り返りながら、各市も学んでいくっていうふうに私は理解をしてるんですけども、そういう形でよいのであれば、また正副委員長のお考えをお聞かせいただければと思います。

○委員長（荒幡伸一君） 今、東口委員のほうから御意見がございましたけども、おっしゃるとおりでございます。本市ではシティプロモーションではなくてブランドプロモーションというような言い方をしてるわけでございますけども、他市のシティプロモーション、どういうプロモーションをしているのかっていうところを学ばせていただいて、本市とどこが違うのか、またどういうところをプロモーションとして生かしていけるのかっていうところを学んでいければなというふうに考えているところでございます。

また、先ほど和地委員のほうから話もございましたけども、今年度でまち・ひと・しごとが更新を来年度するというようなことになっておりますけども、それに対してもどのように、これは来年度の話になってしまいますけども、来年度どのように更新をして、今後どのように進めていくつもりなのか。また、その辺にも今回のこの所管事務調査が生かしていけたらというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員（和地仁美君） 東口委員のおっしゃってるとおりでなっていうふうな部分もあるんですけども、例えば、この正副委員長の案の最初の市長部局のほうの担当部への聞き取りがあるんですけども、例えば、まち・ひと・しごと総合計画を見ても、あの中にいろいろな施策が入っていて、所管課はみんな違うんですよ。なので、ここでヒアリングをするのに、恐らく説明員として来ていただくのは担当の、このブランドプロモーションの担当部とその担当者になると思うんですね。

先ほどの東口委員のおっしゃってるプロモーションの手法がいいんだけど現実が追いついてない、もしくは現実がもっといいのに、もっとプロモーションを上手にやれば、より魅力が伝わるっていう部分は確かに重要なんですけど、現実が追いついてるか追いついてないかっていうと、例えばもう待機児童とか、子育て支援部とかみんなその、結婚支援とかをやってるとか、そういう部署も、結局呼ばなくちゃわからなくなってしまうっていうふうなところに多分絶対壁にぶち当たっちゃうので、そうであるのであれば、総務としてやるので

あれば、現実がどうかという部分は担当部とか課が充実をする部分ですから、このプロモーションとかこの全体の施策の進捗、効果っていうものはかるっていうところを検証するっていうのが現実的なところなのかになっていうふうに私は思うんですね。

こんなに子育て支援が充実してんのにとかっていう、ここが充実してるかどうかとも調査しなきゃいけないなっちゃうと、ちょっと総務の範疇を超えてしまうと思うので、やはりどうやって伝えるかとか、やっていく中で、他市がやっているうちにない施策はこういう取り組みもありますよぐらいの最終報告に載せることは可能かもしれませんが。

なので、この調査項目を変えるか変えないかっていうのはちょっと問題があるかもしれませんが、現実的には市の魅力を上手に伝えるための施策についてっていうことが今回の所管事務調査の調査項目としては、より調査することとマッチしているような内容っていう私は理解をしてるんですけども、そういう形で皆さんがそこら辺を同じ目的を持って調査をしないと、ちょっと曖昧になって、最終的に何が何だったのかってなっても、せっかく時間を使ってやることですので、そこら辺をちょっと委員長のほうで取りまとめていただいて、より調査項目を具体化していただいたほうが、視察先のどの項目を見るのかっていうことも明確になってくると思うので、そのあたり、委員長のほうで取りまとめていただきたいと思います。

○委員長（荒幡伸一君） 今、和地委員のほうから具体的にそのような取りまとめをというようなお話がございました。

正副のほうで取りまとめさせていただいて、また御報告をさせていただきたいというふうに考えております。ほかにございますでしょうか。

○委員（大后治雄君） 今の話なんですけど、いわゆる調査項目そのものの変更っていうのはなかなか難しいと思うので、調査項目の細目、そのところを改めて出していただくって今そういう話をされていたんだと思うんですよね。

そういったようなことに関して出していただければ、確かに我々としても一体何を調査するのか、また我々としても事前に何を勉強してくればいいのかっていうところがわかりやすくなるので、ぜひそこはお願いしたいと思います。

基本的に、私はブランディングにしても、プロモーションにしてもど素人ですので、そこはちょっとどういった基礎があるのか、定義があるのかって、ちょっと勉強してこなきゃいけないなどは思ってますんで、よろしくをお願いします。

○委員長（荒幡伸一君） 承知いたしました。

ほかにございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○委員長（荒幡伸一君） よろしいですか。

それでは、所管事務調査の進め方につきましては、ただいま御協議をいただきましたとおり、進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

○委員（和地仁美君） そうしましたら、今、大后委員の御提案していただいたのは、私は本当にそうだなと思うので、基本的にブランドプロモーションを中心にどういう細目、どういうテーマで調査を進めていくのかというのは正副のほうから出していただける、案を出していただけるということでもいいんですか。今、そういう意味で委員長がおっしゃってるのか、ちょっと確認したいんですけど。

それとも、私たちが細目を出し合って、またこういう場を持つのか。それとも、正副案をもって、そこに皆さんが同意すればそれでやるのかっていう、ちょっとその流れだけでもう一度確認させてください。

○委員長（荒幡伸一君） わかりました。済みません。

皆様のほうから出していただいたほうが、より委員会としては活発な調査も意見も出るかと思いますので、できましたら皆様のほうから細目というのもお出しをいただき、皆様でまた御協議をさせていただければというふうに考えておりますけども、いかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。

○委員（中野志乃夫君） 基本的に市のほうで、こういうブランドプロモーションなりのいろいろ細かい指針なり、いろいろそういった細目なりっていうのはあるんですよね、基本的なものは。それはないんですか、現実的には。

○委員長（荒幡伸一君） プロモーションとしては、市のほうでも持つてはいるんですけども、細目とまではまだいってないというふうに私は認識をしております。

○委員（中野志乃夫君） 当然、基本中の基本の、うちの市でどの段階まで調べてそういうあれを持つてるとかというのかな。それはやっぱり出しといてもらったほうが論議しやすいとかいうのかな。全くこのことについて、ブランドプロモーションは何かっていうことをここで基礎的なことをいろいろ論議し合ってもちょっとどうなのかなという。そのことだけの原理原則を論議する場ではないだろうと思って、あくまでもうちの市にとってどうなのかっていう、基本中の、そこはちょっと出してもらわないとちょっと論議が進まないんじゃないかなって気がするんですけど。

○委員長（荒幡伸一君） 今、市の基本っていう部分を出してほしいというようなお話がありました。

このブランドプロモーション指針の中にもある程度のことは書いてございますので、お示しが……

○委員（和地仁美君） ブランドプロモーション指針とか、まち・ひと・しごととか、うちの市が目指すべき方向性とか、何でこれをやるのかっていう目的だとか、そういうものは全部書いてあるんですね。

他市と比べるとときに同じ物差しを持たなければいけないと思うので、例えばマーケティングはどういうふうに行っているのか。流山さんはどういうふうに行っているのか、どういうふうに行っているのか。うちの市がこれをつくった上で、どういうマーケティングをして、どういうふうに行っているのかとか、例えば効果をどうやってはかっているのかとか、他市はどうやってはかっているのかとか。それから、プロモーションのチャンネルについて、他市はどういうものを使っているのか、うちはどういうものを使っているのかとか。あと、うちの場合は、例えば牧瀬先生というアドバイザーを使っていますが、他市の場合はどういったアドバイザーの方がどういった観点でアドバイスをしてもらって、どう生かしているのかとか。関東学院大学でしたっけ、法学部とコラボレーションをうちにして、そういう大学とコラボレーションをしているけれども、他市はどういった団体、どういったところと、どういうふうに行っているのかとか、どう生かしているのかとかみたいなことを私は調査するんじゃないかなってイメージをしていたんですけども。

うちのブランドプロモーションのいろいろ計画であるとか指針であるとかは、それはもう本音読んで、それを深く理解するにとどまってしまうので、競合他市とどういったふうに行っているのかと比較して、うちの利点、勝っているところ、強味、うちがもうちょっと頑張りがほうがよくなる部分をより具体化、明確化していくことが、もしかしたら次の計画をつくるときに市のほうにも参考にしていただければいいような調査報告がつけられるんじゃないかっていうのが私のイメージなんですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（荒幡伸一君） 済みません。説明が非常に悪くて申しわけございません。

今、和地委員がおっしゃったとおりでございます。正副で考えてるのも、今、和地委員がおっしゃったとおりでございます。

○委員（中野志乃夫君） 逆に、ちょっとそこまでだったら、それ出しておかないと、はっきり言って全然ね、先ほどの論議は、基礎中のことをまずここで論議しましょうみたいな話になってるから、じゃ、こっちも何かね、プロモーションのことを何かいろいろ引っ張り出して、いろいろ本、文献探ってきてね、そこで出すのになってちょっとイメージに思えちゃったから。

今の和地さんの話のようなことであるならば、最初から、最初って言ったら変だけど、次回はそういうものを出して、ちょっと論議の土台がつかれるようにしていただきたいということです。

○委員長（荒幡伸一君） ほかにございますでしょうか。

○委員（大后治雄君） つまり、要はブランディングとかプロモーションとかそういったような定義とか基礎っていうのは、もう皆さんがある程度わかってるっていう前提のもとから始めるっていう形にして、さらに言えば、各市、各自治体の比較検討ができるような同じ土台とか土俵に乗せるような形を、それを基準をどこに持ってかかっていうところを出していただくというのが恐らく細目なのかなというふうに思うんです。

だから、そのところさえ出していただければ、何を比べたいのかっていうのを出しておいていただけると、こちらとしても、ああ、こことここはこうなっているから、うちの市はこれ勝てるよね。これはちょっと負けるから頑張らなきゃいけないよねっていうようなところで取りまとめがしやすくなっていくのかなというふうに思うんです。

多分、和地委員もそういうふうに考えてるんじゃないかなというふうに思うんですけどね。よろしく願います。

○委員長（荒幡伸一君） 承知いたしました。

ほかに御意見はございますでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○委員長（荒幡伸一君） それでは、今おっしゃった細目に関しまして、正副で話し合いをさせていただいて、取りまとめたものをまた定例会前に皆様にお示しができるように御準備をさせていただくということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（荒幡伸一君） では、これをもって令和元年第5回東大和市議会総務委員会を散会いたします。

ありがとうございました。

午前 9時55分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 荒 幡 伸 一